資料１－３

第 33 回本部員会議資料
令和 3 年 5 月 7 日
保 健 福 祉 部

新型コロナウイルス変異株検査結果について
（令和３年５月７日　10 時時点）

１　変異株 PCR 検査（N501Y スクリーニング検査・岩手県環境保健研究センター）

実施月	総件数(件)	うち陽性(件)	検査対象
令和3年2月	47	0	1月～2月公表分検体
3月	31	0	2月～3月 21 日公表分検体
4月	121	3	3月 22 日～4月 26 日公表分検体
5月	9	0	4 月 28 日～5 月7日公表分検体
合計	208	3	

２　ゲノム解析の結果（国立感染症研究所）

検査分類	検体送付	総件数(件)	解析結果(件)					摘要
			国内第2波系統	国内第3波系統	変異株E484K	変異株N501Y	解析不能	
定期検査	1回目	139	119	20	0	0	0	R2.7 月～R3.1 月分検体
	2回目	71	36	35	0	0	0	R2.11 月～R3.2 月分検体
	3回目	40	0	7	31	0	2	R3.2.17～3.25 分検体(N501Y の変異(−))
	4回目	24	0	0	24	0	0	R3.3.17～4.2 分検体(5.6 に国立感染症研究所の検査結果判明)
随時検査	1回目	2	0	0	0	2	0	英国型変異株(N501Y の変異(+))
	2 回目	1	―	―	―	―	―	検査依頼済
計		277	155	62	55	2	2	

【担当】感染症課長　三浦　（内 6091）

新型コロナウイルス感染症（変異株）の評価・分析

1． N501Yの変異のある変異株

- 「N501Yの変異がある変異株」は、従来株よりも、**感染しやすい可能性**がある。
- 英国で確認された変異株(VOC-202012/01)、南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)、ブラジルで確認された変異株（501Y.V3）、フィリピン（P.3）で確認された変異株がこの変異を有している。
- 英国や南アフリカで確認された変異株については、**重症化しやすい可能性**も指摘されている
- 4/26時点、国内事例2,180例、空港検疫234例の計2,414例が確認されている。

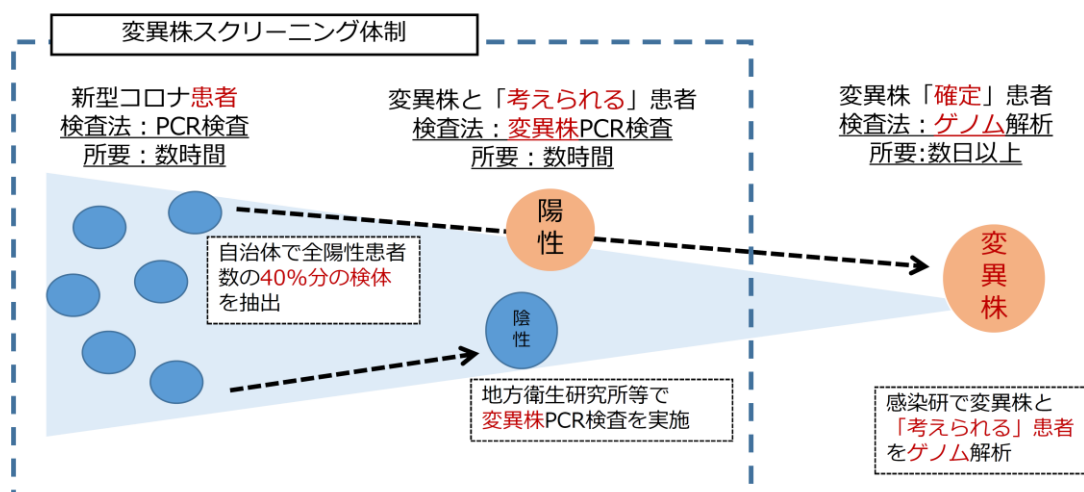
2． E484Kの変異がある変異株

- 「E484Kの変異がある変異株」は、従来株よりも、**免疫やワクチンの効果を低下させる可能性 (*1) が指摘**されている。
- 南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)、ブラジルで確認された変異株（501Y.V3）、フィリピンで確認された変異株（P.3）がこの変異を有している。

*1　この変異のみでワクチンが無効化されるものではなく、ファイザー社のワクチンの場合は、承認審査において、モデルウイルスを用いた非臨床試験を通じ、種々の変異株にも一定の有効性が期待できるが、今後も変異を注視し、引き続き検討が必要とされている。

※　上記のほかに、我が国では、E484K単独の変異株（R.1）が計3,310例（国内3,305件、検疫5件）確認。(2021/4/26時点)

新型コロナウイルス感染症（変異株）のスクリーニング体制

- 民間検査機関や大学等と連携して、**全ての都道府県でスクリーニング検査を実施**。**抽出割合を40%程度に引き上げ、全国の監視体制を強化**。
- 変異株が確認された場合には、**積極的疫学調査や検査を徹底**して、変異株の感染拡大防止に取り組んでいく。

※変異株が確認された自治体においては可能な限り割合をあげてスクリーニングを強化